

1978年 ボブ・ディランの初来日と私

yasu-life.net/1978-bob-dylans-first-visit-to-japan-and-me/

666yasu

2024.02.06



「BOB DYLAN / The Complete Budokan 1978」が、2023年11月15日に日本で先行発売されました。1978年にボブ・ディランが初来日し、2月28日と3月1日に武道館で行われた公演の完全収録アルバムです。当時の初来日公演は「武道館」というタイトルで、2枚組ライブ盤として日本のみで発売されました。このアルバムは、2月28日・3月1日の二日間を収録した中から抜粋してアルバムにまとめた物です。

2007年に二日間を録音した24chアナログマルチテープが発見され、それから何度もリリースの許可を得ようと試みた様ですが、その許可は下りなかった様です。それから15年、2022年にマネージメントから許可が下り、2023年に24chマルチテープから最新リミックスを行った物が今回発売された「コンプリート武道館」になります。

コンプリート武道館は4CDと8LPの二種類が発売され、いずれもBOXに収納されています。その中には当時未発表の写真や資料、そして記念品などが収められており、ディランファンとしてはとても魅力のある商品だと思います。



ただ、4CDが22,000円(税込) 8LPが44,000円(税込)で、アルバムとしてはかなり高額な物になりました。 とても欲しい！ だが、買えない！

あなたのバイクを写真査定!
KATIX

メーカー名	カワサキ	OK	バイク名	Z900RS	OK
排気量	751cc以上	OK	走行距離	~2,999km	OK
完全無料 >> 今すぐ査定額をチェック!					

自分がボブ・ディランを聞き始めたのは中学3年生の頃で、一時期ボブ・ディランだけを聞いていた時がありました。ボブ・ディランの詞は難解とされ、ミュージシャンというより詩人のイメージがあります。実際にボブ・ディランは「ノーベル文学賞」を受賞しました。詩が受賞の対象になる事は珍しいと思います。それだけボブ・ディランの詞は評価が高いという事になります。果たして、中学生のガキがその詞を理解していたのだろうか？ 自分は、そんなませたガキではなかった。単純に、当時没頭していた吉田拓郎がボブ・ディランに影響を受けたと知ったからです。ならば！ という事で、形だけでもボブ・ディランを聞いて、彼の曲をコピーしギターを弾いていました。そんな訳で、詞はほとんど理解していませんでした。

ボブ・ディランの曲はメロディアスな物が多くはありませんが、多くの人を引き付けたのは詞の力が強かったためだろう。そのため、ファンというよりは教祖に近い存在だったかもしれません。いわば、フォークの神様だろう。ボブ・ディランはやがてフォークからロックへ移行して行く訳ですが、旧来のフォークを愛する者にとってはとんでもない裏切り行為に感じたと思います。教祖が、キリスト教からイスラム教へ改宗する位の許されない行為に感じたのかもしれない。

1966年5月、イギリスのロイヤル・アルバート・ホールでボブ・ディランのコンサートが行われました。コンサートは2部構成の様になっており、前半はアコースティックギター一本のコンサートでした。しかし後半は、ザ・ホークス(後のThe Band)をバックにエレキギターに持ち替えた。ディランが歌っている間にも、会場内からは野次が絶え間なく飛び続けたらしい。そして最後の曲の前に客の一人が「ユダ!(裏切り者)」と叫んだ。するとディランは、「お前の言う事は信じない」「お前は嘘つきだ」と応えたエピソードは有名な話です。一年前の1965年、ニューポートフェスティバルでも似たような事が起きています。1965年に発売された「Bringing It All Back Home」では、片面がバンドをバックにしたサウンドであったし、「Highway 61 Revisited」1966年に発売された「Blonde on Blonde」は、完全にロック色のアルバムになりました。ディランの変化を受け入れた者と、旧来のディランを支持する者がこの時期に混在していたのだろう。

この事件から30年以上経った1998年に「BOB DYLAN LIVE 1966」としてロイヤル・アルバート・ホールのコンサートが2枚組CDで発売されました。



1枚目がアコースティックで、2枚目がエレキギターによる演奏になっています。しかしこのコンサートの模様は、1970年頃に海賊版として出回っていた様です。自分が20代前半の頃に、東京でレコード屋巡りをしていた時に偶然見付けた！



当時このエピソードは知っていたので、興奮気味に購入しました。しかし中を開けて見ると、レーベルには「SPINDIZZIE / BRUCE DILLON」。誰？ 騙された！ と思った。とりあえず聞いてみると、音は確かにロイヤル・アルバート・ホールのモノでした。この海賊版には、後半のThe Bandとの演奏のみが収録されています。このレコードは、海賊版としては比較的良い音に出来上がっています。たぶんロイヤル・アルバート・ホールのライブは、正式にマスターテープとして録音されていたのかもしれませんが。その音源がどこからか漏洩し、海賊版として出回ったかもしれない。30年以上経ってからマスターテープをリミックスし、CDとして発売されたのではないかと自分は思っています。ちなみに、BRUCE DILLONとはどういう人なのか調べてみました。しかし、見付ける事は出来なかった。ただ、これと同じレーベルの付いた色々な種類の海賊版が出回っている。この人のレコードが売れなくて、レーベルが多く余ったのだろうか？

1978年 初来日武道館ライブは、自分も見に行く事が出来るはずだった。しかし・・・

友人がサプライズのつもりだったのか、このコンサートのチケットを入手したという連絡が入った。すぐにでも休暇を取り、東京に向かいたい気持ちで一杯だった。しかし、それは不可能な状況でした。

自分は1977年に高校を卒業し、同年3月3日にOPENした「アイケーショッピングデパート」で仕事に就く事になりました。アイケーは、能代で初の本格的ショッピングデパートでした。武道館ライブのあった日は、丁度アイケーの一周年祭の最中だったのです。当時の記憶はあまりないのですが、ただ一つ、当時全盛期であった「ピンク・レディ」を能代にアイケーが招致した。たぶん、招待チケットが当たる！ という様な企画だったかもしれない。極小都市の能代に当時のピンク・レディを招致する事は難しかったと思いますが、そこは資本提携していたニチイ(後の2001年に倒産したマイカル)の力が大きかったと思います。一周年祭は、それだけ気合の入ったモノであった。そんな状況で休みを取得出来るはずもなく、諦めるしかなかった。彼には失望させて申し訳なく思いましたが、まだ入社2年目でも

あるしどうしようもなかった。行きたくて行きたくて、ただただ悔いが残りましたが、この時は悪い事ばかりでもなかった。後日 ピンク・レディのコンサートが行われたのですが、自分がこのコンサートの警備員として動員された。



コンサートは、現在は使われていない「能代市立体育館」で行われました。コンサートホールというよりも、学校の体育館の様です。当日は敷地内に客が収まらず、道路にまで人の列が出来ました。その整理も仕事の一つでした。そしてコンサートが始まると、最前列で客の警備にあたりました。能代衆は大人しいので、コンサートが始まっても騒ぐ事もなく仕事は楽でした。おかげで、最前列でピンク・レディのコンサートを見る事が出来ました。

ボブ・ディランが帰国後、ライブアルバム「武道館」が1978年8月21日に日本限定でリリースされました。



発売されてすぐに購入しました。この聴衆の中に彼もいるんだ！

ボブ・ディランの初来日公演は「FAR EAST TOUR 1978」というワールドツアーの一環でした。そのワールドツアーの最初の国が日本でした。そこに何か理由があったのだろうか？

ボブ・ディランは、1966年7月29日にバイク事故を起こし重傷を負います。それ以降はあまり表舞台に出ず、隠遁生活を送る様になりました。アルバムを発表してもカントリー・ミュージックぽいモノや、カバー曲をレコーディングしたり、映画に出演しサントラ盤を出すなど、かつてのディランらしくない行動が多くなった。名盤「Blonde on Blonde」までが彼の第一の絶頂期で、バイク事故以降は低迷期に入った様に感じました。そんな状況の中でも作品は作り続け、The Bandと多くのデモテープが制作されました。その一部が後に「地下室・ザベースメントテープス」という題で、2枚組アルバムとして発売されました。

長い低迷期の後、なぜかボブ・ディランは「アサイラム・レコード」に移籍する事になりました。アサイラム・レコードでは2枚のアルバムしか発表されなかったのですが、この頃から復活の兆しが見えて来る。この時に発表された2枚組ライブ「偉大なる復活」



1974年に、The Bandとのツアーが記録されたモノです。

1975年10～12月と1976年4～5月、二つの時期にかけて「Rolling Thunder Revue」と銘打ったライブツアーが行われました。アメリカ国内だけのツアーでしたが、メッセージ性の強いツアーの様に感じました。そして、「FAR EAST TOUR 1978」と、毎年の様にツアーが行われる様になりました。1974年に復活したディランは、第二の絶頂期に入った様に感じました。初来日公演は、この絶頂期に行われたライブという事になります。

期間	公演地	公演回数	
2月20日～3月4日	日本	11	
3月9日	ニュージーランド	1	
3月12日～4月1日	オーストラリア	11	
6月1日～6月7日	アメリカ・ロスアンゼルス	7	
6月15日～6月20日	イギリス・ロンドン	6	
6月23日	オランダ	1	
6月26日～7月1日	西ドイツ	4	
7月3日～7月8日	フランス・パリ	5	
7月11日～7月12日	スウェーデン	2	
7月15日	イギリス	1	
9月15日～9月17日	アメリカ	3	
9月19日	カナダ	1	
9月20日～10月9日	アメリカ	14	
10月12日	カナダ	1	
10月13日～11月10日	アメリカ	20	
11月11日	カナダ	1	
11月13日～12月16日	アメリカ	25	

FAR EAST TOUR 1978は約一年に渡るワールドツアーで、アメリカ国内を主とし、アジア・オセアニア、ヨーロッパ、カナダで公演が行われました。そして、最初が日本だったのです。

日本公演は2年以上前に決まっていた？ と思われる。



自分が好きなアルバムの一つ「欲望・Desire」です。このアルバムは、1975年第一期 Rolling Thunder Revueの後に制作され、1976年第二期の前の1月5日に発表されました。このアルバムジャケットの裏側に、鎌倉の大仏(赤囲み)らしきものが描かれています。初来日への暗示だったのだろうか？ 当時これを見た時には「ディランは日本に興味があるのかな？」とっていました。

現在はボブ・ディランをあまり聞かなくなりましたが、1978年の初来日公演には特別な思いがあります。友人が手に入れたチケットで、見る事が出来たかもしれない公演だったからです。今回発売された「The Complete Budokan 1978」を聞くと、自分が当時にタイムスリップして会場へ飛んで行ける様に思ったからです。しかし、値段が・・・

The Complete Budokan 1978とは別に「Another Budokan 1978」が発売されました。このアルバムは「AT BUDOKAN」に収録されなかった曲を抜き出したモノです。つまり「AT BUDOKAN」と「Another Budokan」を合わせれば、アルバムに収録された全ての曲を聞く事が出来ます。しかもLP仕様なので、AT BUDOKANと合わせるには都合が良い。2枚組で6,380円(税込)は少し高いが、これ位であれば・・・ という事で購入しました。

LIVE AT NIPPON BUDOKAN HALL, TOKYO, JAPAN

FEBRUARY 28, 1978 MARCH 1, 1978

LP 1.
SIDE A:
 1. A Hard Rain's A-Gonna Fall
 2. Repossession Blues
 3. Ballad Of A Thin Man
 4. Ta Ranman
SIDE B:
 1. Like A Rolling Stone
 2. Blower In The Wind
 3. All Along The Watchtower
 4. Tomorrow Is A Long Time

LP 2.
SIDE A:
 1. Love Her With A Feeling
 2. I Threw It All Away
 3. Girl From The North Country
 4. One Of Us Must Know (Cover Or Later)
SIDE B:
 1. I Don't Believe You
 (She Acts Like We Never Have Met)
 2. You're A Big Girl Now
 3. The Man In Me
 4. Forever Young

ALL TRACKS PREVIOUSLY UNRELEASED

LP 1234 011 (1978)
 ©1978, 2014 Sony Music Entertainment, Inc. Manufactured by Sony Music Labels Inc., a division of Sony Music Entertainment Inc. All Rights Reserved. All other trademarks are a matter of applicable law.

BOB DYLAN
 Another Budokan 1978

Another Budokan 1978
 Produced by Masaki Sugano and Tetsuya Shiroki

Compiled by Masaki Sugano
 2023 Remaster by Tom Searle
 Assistant Engineer: Naoki Yamaguchi (Sony Music Studios Tokyo)
 Vinyl Cutting by Nippon Audio Service (Shirai's Lab)
 Recorded at Nippon Budokan, Tokyo, Japan (Feb. 28, 1978 - Mar. 1, 1978)
 All Tracks Previously Unreleased

Art Direction & Design: Tomoko Takano (Shirai's Lab)
 Photographs: Masaki Sugano (Front & Back Cover)

Product Manager: James van der Meer
 Fulfillment Manager: Shinya Takano (Takano Kankou, Nishi-Ku, Kyoto)
 1077 Marketing Coordinator: Rei Kamekura

Original 1978 LP
 Producer: Don Schlitz
 Engineers: Tom Searle, Tetsuya Kawai, Tetsuya Tamaki, G.R. Schilling
 Product Manager: Masaki Sugano

All songs written by Bob Dylan
 except: Repossession Blues (Richard Young)
 Love Her With A Feeling (Tompa Reid)

Bob Dylan — vocals, guitar, and harmonica
 Billy Cross — guitar
 David Miller — acoustic guitar and background vocals
 David Mandel — mandolin, dulcimer, and piano
 Alan Pasqua — keyboards
 Bob Carter — bass and background vocals
 Les Williams — drums
 Bobby Holt — percussion
 Joseph Gagliardi — background vocals and flute
 Wilma Sprague — background vocals
 Jo Ann Harris — background vocals
 Didi Baker — background vocals

Special Thanks: Jeff Rosen, Forster Fisher, David Best,
 Richard Stone, Jeffrey Schenberg, Bob Seaman,
 Gorohei Yamamoto, John Conway, Mark Wilbur,
 Okiyama Satoru, Masaru Kurikawa, Kyoko Takagi, USD Artists,
 Masaki Kanae, Taka Takahashi, Shinichiro Kitano,
 Naoko Nakajima, Charles Ishikawa, Akiko Ozawa,
 Jiro Sato, Yoko Nakajima, Akiko Hasegawa,
 Naoki Kuroki (Shirai's Lab), Tetsuya Kato (Shirai's Lab)



February 28, 1978

LP 1, SIDE A:

1. A Hard Rain's A-Gonna Fall
2. Repetition Blues
3. Suburbs of a Thousand Suns
4. No Reason

LP 1, SIDE B:

1. Like a Rolling Stone
2. Wander in the Wind
3. All Along the Watchtower
4. Tomorrow Is a Long Time

March 1, 1978

LP 2, SIDE A:

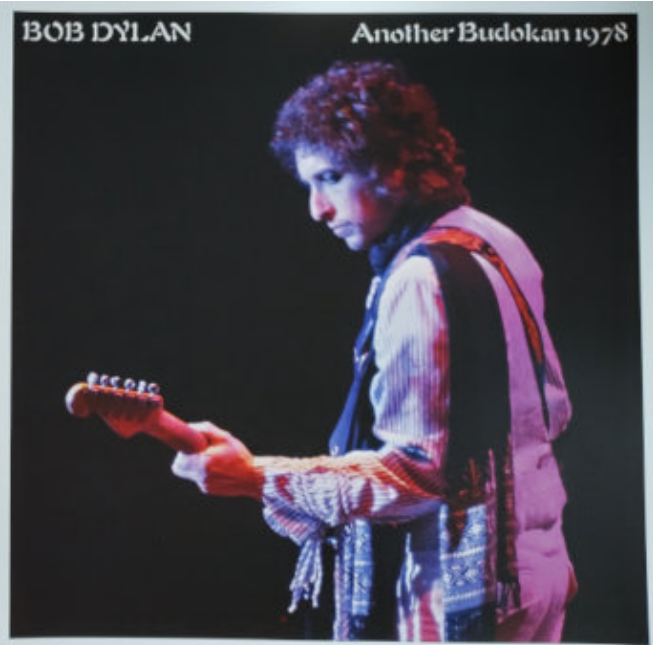
1. Love Me With a Frying Pan (aka Ain't Nothin' Goin' On Here)
2. I Shall Not Be Moved
3. Oh! From The North Country
4. One Of Us Must Know (Where the Lizard Lives)

LP 2, SIDE B:

1. I Don't Believe You (aka Ain't Nothin' Goin' On Here)
2. You're A Big Girl Now
3. The Man In Me
4. Forever Young



LP 1 (2004)
Bob Dylan (2004)



BOB DYLAN Another Budokan 1978



Another Budokan 1978

Bob Dylan at Budokan could be considered a live document. ...

... Dylan's performance was a watershed moment in his career, marking a return to his roots and a renewed sense of purpose. ...



... Dylan's performance was a watershed moment in his career, marking a return to his roots and a renewed sense of purpose. ...

... Dylan's performance was a watershed moment in his career, marking a return to his roots and a renewed sense of purpose. ...



武道館 ● あの日のボブがここにいる。

ライブの模様を収録したDVD、Blu-ray Disc、CD、LP、LP-BOX、写真集、書籍、グッズなど、様々な商品がラインナップされています。

ライブの模様を収録したDVD、Blu-ray Disc、CD、LP、LP-BOX、写真集、書籍、グッズなど、様々な商品がラインナップされています。

ライブの模様を収録したDVD、Blu-ray Disc、CD、LP、LP-BOX、写真集、書籍、グッズなど、様々な商品がラインナップされています。

BOB DYLAN Another Budokan 1978

ボブ・ディラン ● アナザー・武道館

「ボブ・ディランは、日本に多くのファンを生み出した。彼の音楽は、多くの人々の心を打动了。そして、その音楽は、今もなお、多くの人々の心を打動している。」

LIVE AT NIPPON BUDOKAN HALL, TOKYO, JAPAN

FEBRUARY 28, 1978 MARCH 1, 1978

LP 1	LP 2
<p>Side A</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 泣かぬ、雨降る 2. 繰り返しのブルース 3. サブサバの千の太陽 4. 理由 <p>Side B</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 如く滾る石 2. 風を渡る 3. 塔の上の望楼 4. 明日は長い道 	<p>Side A</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 愛を焚く 2. アイ・シャドウ・オブ・ア・サウザンド・サンズ 3. 北風吹く 4. ユー・アー・ビッグ・ガール・ナウ <p>Side B</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アイ・ドント・ビリーブ・ユー 2. 君は大きな女の子 3. 永遠の若さ



コンプリート武道館の様に最初から最後まで会場の様子を知る事は出来ませんが、演奏した全ての曲を知る事によって、ある程度は会場の様子が分かる。もし、コンプリート武道館の様にしたいければ・・・



Another BudokanとAT BUDOKANから、キャプチャーボードを使ってリッピングしてパソコンに取り込む。そして、取り込んだファイルを演奏順に並び替えてつなぎ合わせる。ただ・・・

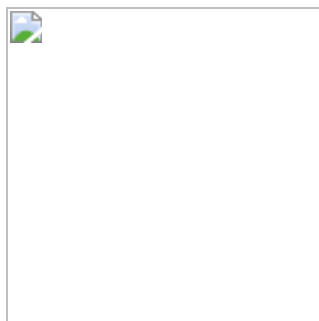
武道館 ● 収録曲インデックス

		コンプリート 武道館		アナザー 武道館		武道館	
		2/28	3/1	2/28	3/1	2/28	3/1
1	はげしい雨が降る	1	1	1			
2	リボゼッション・ブルース	2		2			
3	ミスター・タン布林・マン	3	3				1
4	アイ・スリュウ・イット・オール・アウェイ	4	4		2		
5	嵐からの隠れ場所	5	6			2	
6	ラヴ・マイナス・ゼロ	6	5			3	
7	北国の少女	7	7		3		
8	やせっぽちのパラッド	8	8	3			4
9	マギーズ・ファーム	9	9				6
10	ラモーナに	10		4			
11	ライク・ア・ローリング・ストーン	11	11	5			8
12	アイ・シャル・ビー・リリスト	12	12				9
13	イズ・ユア・ラヴ・イン・ヴェイン	13	13				10
14	ゴーイング・ゴーイング・ゴーン	14	14				11
15	スーナー・オア・レイター	15	15		4		
16	風に吹かれて	16	16	6			12
17	女の如く	17	17				13
18	オー、シスター	18	18				14
19	運命のひとひねり	19				15	
20	きみは大きな存在	20	20		6		
21	見張塔からずっと	21	21	7			16
22	アイ・ウォント・ユー	22	22				17
23	オール・アイ・リアリー・ウォント	23	23				18
24	明日は遠く	24		8			
25	くよくよするなよ	25				5	
26	イツ・オールライト・マ	26	26			20	
27	いつまでも若く	27	27		8	21	
28	時代は変わる	28	28			22	
29	ラヴ・ハー・ウィズ・ア・フィーリング		2		1		
30	コーヒーもう一杯		10				7

31	アイトント・ヒリーウ・ユウ	19	5	
32	天国への扉	24		19
33	ザ・マン・イン・ミー	25	7	

Another BudokanとAT BUDOKANには、2月28日と3月1日の演奏が混在しているので、コンプリート(完璧) にコンサートを再現する事は出来ない。でも曲のアレンジは変わらないと思うから、ほぼ当時のコンサートを再現できるのでは? と思っています。別な意味で考えると、コンプリート武道館の2月28日の演奏と3月1日の演奏は2 / 3が同じ曲なので、ほぼ同じ感じになるのでは? と思いました。

レコードを購入して二ヶ月程経った頃、コンプリート武道館の全曲がYouTubeにアップロードされているのを知りました。



The Complete Budokan 1978 (Live)

作成した動画を友だち、家族、世界中の人たちと共有



www.youtube.com

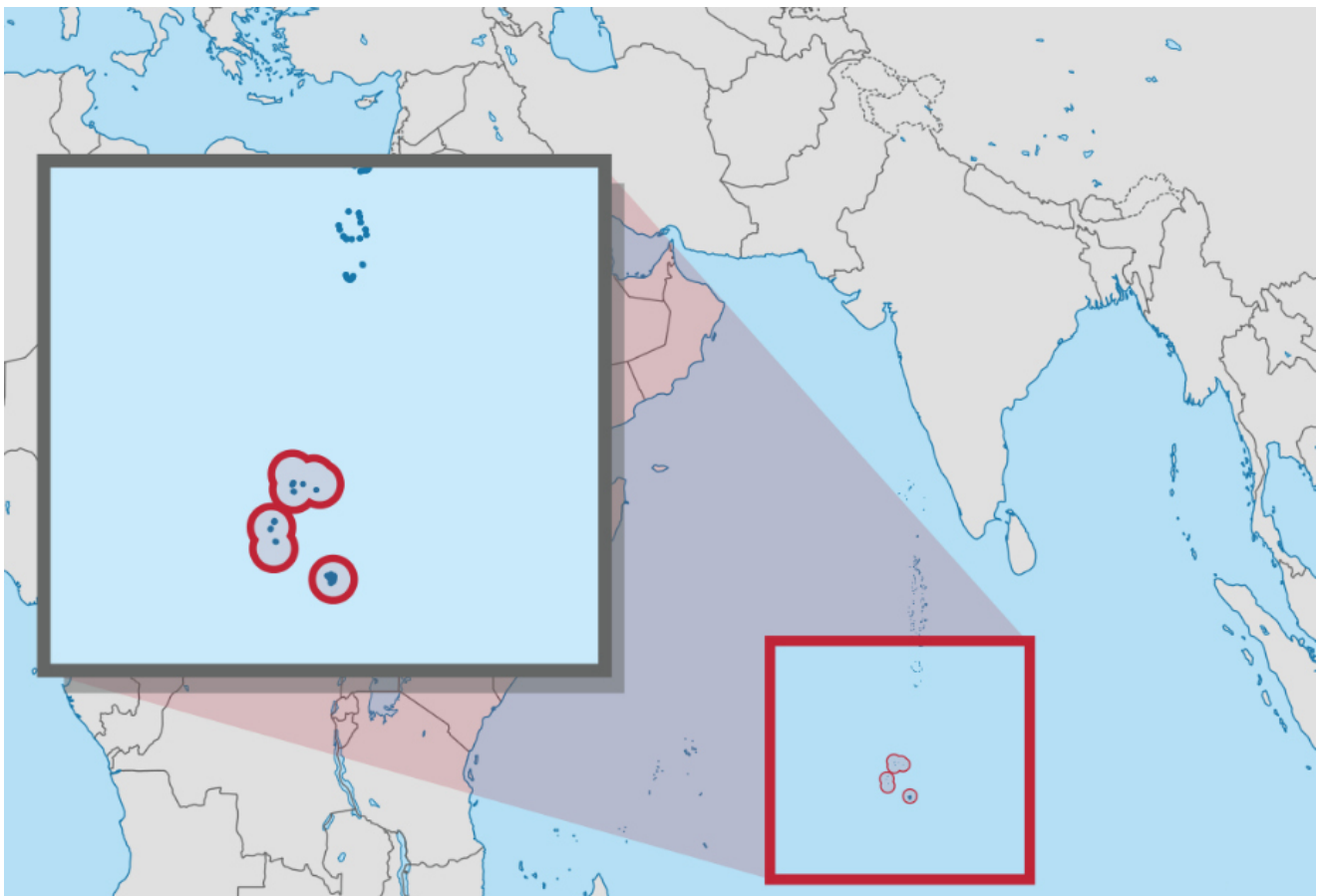
たぶん、ディランの公式サイトだと思います。購入前に知っていれば、Another Budokanを購入する必要がなかったのでは? と思いました。実際にCDなどで聞くのと違うのは、ファイル毎に一度は途切れる事。プレミアムに登録していないと、一曲毎に間へCMが入る。それでも、LPレコードからリッピングして編集するよりも、はるかに当時のコンサートの様子を再現出来る。このファイルをダウンロードして全曲をつなげれば、立派な「The Complete Budokan 1978」が出来上がる。しかし、基本的にYouTubeはダウンロードする事が出来ない。ま、方法が無いわけでもないが・・・

YouTubeのダウンロードは違法になるのか? 調べてみると、YouTubeのダウンロードは規約で禁止されている様です。でも規約であって、法律違反ではない。アップロードしているのはたぶんディランの公式サイトなので、違法アップロードではない。つまり、ダウンロードして自分で楽しむ限りでは違法に問われない。と、自分は解釈しました。ので、その辺はグレーです。

YouTubeをダウンロードする方法は色々ある様ですが、怪しいサイトやアプリもあるので、は? と感じます。それを覚悟で、少しやってみました。



これはどうなんだろう？ かなり不安！ とりあえず、ダウンロード出来て再生にも問題は
ありませんでした。ただ、注意メッセージが出ている以上は、何かしらの問題を含んでいる
のかもしれませんが。もし強行するのであれば、後はダウンロードしたファイルを編集アプリ
を使ってつなぎ合わせれば出来上がりです。ドメインが「io」というのも初めて見まし
た。調べてみると、イギリス領インド洋地域に割り当てられているドメインの様です。イ
ギリス領インド洋地域とは



インド洋にある、チャゴス諸島を中心としたイギリス海外領土。人口は3500人程で、ア
メリカ軍の基地もあるらしい。チャゴス諸島の原住民は1967年から1971年にかけて、全て
移住させられた。ここに住んでいる方は、軍関係者のみ？ 何か観光地っぽい気もしました
が、色々と疑惑の話も聞く。軍基地があるためだろうか。いずれにしろ、普通の住民はいな
いか、極々少ないと思います。そこにつながるサイト。やはり、怪しいかもしれない。実
行する場合は、自己責任という事になります。

以前からアンプの調子が悪く、アンプが温まるまで片側の音が出ませんでした。それでも時間を掛けると使用に問題はなかったのですが、使用途中から不穏な動きがあり完全に音が出なくなった・・・